

第1回学習会・現地実行委員会を開催！！

60名以上が参加

6月28日（土）14時から開催された第1回現地実行委員会・学習会は60名以上の参加がありました。講師は、県労連議長で建交労専従として長く活動してきた川路潔さん、じん肺診療に携わる医師で医療生協理事長の檜原真由美さん、じん肺・振動病などの労災職業病を裁判でたたかってきた弁護士渡辺耕太さんの3人をシンポジストとして各氏から報告。コーディネーターは、健生病院院長の酒井誠さん。大分で歴史的に取り組んできた労災職業病について、「労働組合」「医療機関」「法律」の3つの角度から報告されました。



左から酒井実行委員長、檜原さん、渡辺さん、川路さん

参加者の感想文から

「たたかいをふりかえる機会となり、良い学習ができた。」（50代・無職）

「じん肺・振動病といった労災職業病の歴史から、それに関わる方々の活動を詳しく知ることができました。じん肺患者さんは減っていることはありますが、今後また新たな労災職業病が出てくる可能性は十分にあるため、「根絶」に向けた取り組みが必要であり一人一人が声を上げて行動することが大切であ

と感じました。」（30代・女性）

「今までじん肺やアスベスト、振動障害について知る機会が無かったので、とても良い勉強になりました。じん肺について、特に大分から大勢の患者さんが出ていることに対して驚きました。実際の現場に近い先生方のお話で、身近なこととしてとらえることができました。」（30代・女性）

「今まで医療としての”じん肺について”の話はきいたことがありました。今日は労働組合、弁護士さんによる話をきいて、病院の外で行われていることをはじめて知りました。病気が治る、治らないだけでなく、お亡くなりになった後も闘い続けるのか・・・と驚きました。色々な立場の方が、色々な視点をもって色々な思いを抱くことは大変有意義であると思いました。また、機会があれば参加したいです。」（30代・女性・リハビリ）

「大変勉強になりました。『労災職業病』については、日常的に出会うことが少なくなっていたので、過去の「病」としてしまいがちでしたが、改めて本日のシンポジストの皆さんの話をきき、現在進行形のものだと確認（信）しました。自身の学習不足を痛感いたしました。長い間働き続け、国の発展に尽くしてきた労働者、今も一生懸命に働いている労働者が理不尽な状況にならないように、今後も幅広い運動を前に進めることが肝心だと思いました。大変貴重なお話ありがとうございました。」（60代女性・介護職）



振動工具の説明を聞く様子



次回以降の要望など

「知っているようで知らないテーマだったので時間を使って学ぶ必要があるものでした。」（50代・男性）

本番まで、あと3か月半。
分科会発表準備も開始しましょう。

第1回学習会動画

